

令和2年度 第2回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針  
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	令和2年度第2回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日 時	令和2年12月11日(金) 午前9時30分から午前11時45分まで
3	会 場	豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール
4	出席者	磯野会長、細川副会長、中樞委員、瀧澤委員、水原委員、浅見委員、吉田委員、山田委員、大澤委員、小澤委員、亀井委員、今泉委員、藤原委員、丸山委員、望月委員 計全15名
5	市側出席者	山田市民生活部長、地域づくり課 高橋課長、児玉課長補佐、寺島主任、藤原主任、土屋地域おこし協力隊員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和2年12月18日
<b>協 議 事 項 等</b>		
<b>1 会議の概要</b>		
(1) 開会		
(2) あいさつ		
(3) 報告事項		
① 本年度庁内で実施されている個別協働事業について		
(4) 協議事項		
① 協働推進行動計画に基づく進捗状況の評価方法について		
② 令和2年度の市民活動サポートセンターの実施事業について		
(5) その他		
① 安曇野市まちづくり推進会議について		
(6) 閉会		
<b>2 会議事項概要</b>		
(1) 開会 (進行：細川副会長)		
(2) あいさつ (磯野会長)		
(3) 報告事項		
① 本年度庁内で実施されている個別協働事業について		
※事務局より説明。12月4日時点で市が実施している個別協働事業は25事業。事業は各課から報告された範囲で記載し、全てを網羅しているわけではない。約半数の12事業は新型コロナウイルスの影響で中止・変更した。事業実施後、実施主体双方が自己評価し、年度末に開く協働委員会で報告する。		
<b>【会長】</b>		
・事務局より説明をいただいた。委員より質問等があればお願いしたい。		
<b>【委員】</b>		

- ・事業の形態で実行委員会形式が非常に多い。
- ・以前から実施している事業が多く、新しい事業が少ない。
- ・コロナ渦でどう協働事業に取り組んでいるかという事例がない点がさみしい。

#### 【事務局】

・事業の形態が偏ってしまう点は致し方ない部分がある。実行委員会形式が多い点について、他の形態の共催や事業協力（協定）は特定の団体と一緒に実施するのが中心なのに対し、実行委員会形式は市民や団体、企業等が一つの目標に向かって実施する点が特徴。ある面で実行委員会形式は良いことであると考えている。

・新しい事業が加わることは望ましいが、協働という性質上、年度を重ねていく中で醸成されていく事業も多い。

・新型コロナウイルスに配慮した事業展開について、市の事業も4月ごろから中止となり、最近まで同様の状態が続いている。協働事業に限らず、感染予防対策を講じながら事業を進めることは手探りなのが事実だ。

#### 【委員】

・市の各事業課が年度ごとの事業を実行委員会形式として行い、市が事務局を担っていることが多い。市民が自分たちのことは自分たちで実施するという事業展開がほしい。

#### 【委員】

・コロナ渦であっても何かやらなければならないという話があったが、何もやらないことが得策という意見もある。事業を実施して感染が広がった時、責任を取ることは難しい。

#### 【委員】

・コロナ渦の今、オンラインやリモートがキーワードになっており、ICTの活用は行政、市民問わずできることと言える。Wi-Fi設備を整えた公民館を拠点に会議を開いたり、スマートフォンを活用して健康体操を実施したりするなど、ICTの活用は進める価値がある。

#### 【委員】

・今の点に補足したい。今年は半分ほどの事業が中止になってしまったという話だが、来年も同じような状況になると思う。インターネット配信するイベントをサポートすることができれば、開催するきっかけになる。コロナ渦で来年もイベントの開催が難しい状況がある中、いかにイベントを開いていくかという方向で考えてほしい。

#### 【事務局】

・市民活動団体などの協力を受け、あづみの市民活動フェスタ（12月13日まで）を開催している。その中でオンライン会議体験やオンライン交流会を行うなど、ICTを生かした試みが始まっている。まだ計画段階で実現できるか分からないが、市民活動に関わる講師にオンラインで講演していただくことも考えている。いただいた意見を参考にしたい。

#### 【委員】

・インターネットによる配信は進めていかなければならないが、受け手がどう使いこなせるかが課題だ。一方的に配信すれば良いということではなく、受け手への技術指導も必要になってくるのではないかな。

#### 【委員】

・高齢者らがデジタル機器を使えるようにするため、デジタル活用支援員を各地に配置する

国の動きがある。行政としてそうした動向を察知し、具体的に動いてほしい。

#### (4) 協議事項

##### ① 協働推進行動計画に基づく進捗状況の評価方法について

※事務局より説明。第2次安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画（協働推進行動計画）について、全74項目の行動要領ごとではなく全20項目の具体的施策ごとに評価することを提案。4段階の達成度と根拠となる成果や課題、次年度の方向性を示した施策評価シート案を示した。

##### 【会長】

・事務局より説明をいただいた。委員よりご意見をいただきたい。

##### 【委員】

・施策評価シート案は従来に比べるとすっきりしていて見やすい。  
・なるべく大勢の人が評価できる仕組みができると良い。インターネット上で投票できる仕組みを活用すれば、市民の声を拾い上げることができると思う。そうした努力をしていけば、充実した評価になるのではないかな。

##### 【委員】

・この委員会で評価することは現実的に難しいのではないかと感じる。PDCAサイクルで一番難しいのは評価。どう評価し、次につなげていくかをしっかりと議論しなければならない。  
・インターネットを活用することについて、全てをデジタルに置き換えることはできない。

##### 【委員】

・評価する目的は今後、改善していくため。施策評価シートとして1枚にまとめたことで、見やすくなった。

・5年間同じ施策評価シートを使うことになると思うが、例えば計画期間の4年目になった時にこれまでの成果を書くか、あるいは1年ごとの変化を書くのかを考えなければならない。1年ごとにどう工夫したかを示せば、ステップを踏んでいることが分かる。

・成果よりも課題が何かを把握することが大切。課題に対し、この委員会で具体的な提案をすることができれば計画の目標に近づいていく。施策評価シートを上手に活用し、今後に生かせる評価や提案をしていくことが協働委員会の役割だと感じる。そのためにも、課題に対する提案を委員が出しやすいよう事務局側に材料を提供してほしい。

##### 【事務局】

・市民から広く意見を求めることも必要だと思うが、一般公募の市民も委員となっている協働委員会はさまざまな考えを集約した組織だと考えている。さまざまな立場の委員から意見や評価をいただきたい。

・前回の会議でも、評価することが難しいという指摘があった。今回提案した施策評価シート案は、より良い評価をしていただくために提案した。さらに参考となる材料を提供し、この場で評価していただけるよう工夫していく。

・単年度の評価も大切だが、計画は5年間であるため積み上げてきた成果や効果が分かるようにしていきたい。評価だけでなく、今後の方向性について委員から提言をいただけるよう資料の作成に努めたい。

##### 【委員】

・前回の委員会での討議を踏まえ、このような形で示してくれたことはありがたい。達成度について、成果・効果と課題の2点に分けたのは良い。それぞれ取り組み内容を分析し、吸い上げた上で次年度の方向性が固まっていけば良い。

・地域で活動していると時間に追われ、きちんとした評価・反省が先送りになってしまう。その場を何とかこなしていくことが事実。施策評価シート案を参考に、私自身も活動をもう一度見返したい。

**【委員】**

・改正した資料は見やすい。4段階の達成度が具体的な評価になってくると思うが、立場や専門性が異なる委員が評価するとなると客観的な評価が必要だ。協働委員会の委員や行政側の人員がかわってもぶれない指標・基準を作ると評価しやすいのではないか。そうした指標を作っていく点も今後の課題だと感じる。

**【委員】**

・事務局側が提案した形によってある意味で合理的、客観的な評価を示すことができる。事務局が提供する情報がさらにしっかりしていけば、委員同士でより客観的な評価をすることができるのではないか。

・協働委員会としては施策評価シートを使って評価していくことが一つの役割だ。さらに委員会に求められている点として、各市民活動団体が活動内容を客観的に評価することができるような基準を作り、それを提案することができれば大きな成果になる。

**【委員】**

・報告事項1の「本年度市内で実施されている個別協働事業について」で、事業内容やテーマはどういった過程で決まっているのか。

**【事務局】**

・25事業が始まったきっかけはさまざま。市の施策としてやらなければならないことに対し、既に取り組んでいる、あるいはスキル・ノウハウを持った市民に声を掛けて始めた事業もあれば、市民側から提案があって始まった事業もある。また、協働事業提案制度で事前に市民と実施したいテーマを決めて公募した事業もある。

**【会長】**

・協議事項1の施策評価シート案は概ね良いということでよろしいか。

※委員からの異論なし。

**【委員】**

・第2次協働推進行動計画内の情報共有の仕組みづくりについて、災害時の情報共有を盛り込んだ方が良い。

**【事務局】**

・計画は協働のまちづくりに関わる部分を記載しており、防災関係は別の計画で触れる。

② 令和2年度の市民活動サポートセンターの実施事業について

※事務局より説明。第2次協働推進行動計画に沿い、市民活動サポートセンターとして本年度取り組んだ事業として、市民活動座談会、あづみの市民活動フェスタ、センター通信の発行、SNS（Facebook）の活用などについて、概要と成果や課題を示した。

**【会長】**

・事務局より説明をいただいた。委員よりご意見をお願いしたい。

**【委員】**

・コロナ渦で身動きが取れない中でもSNSを活用するなど工夫している。

・さまざまな経緯があり、現在は行政が市民活動サポートセンターを運営しているが、行政だと定期的な人事異動や活動に制限があるなど弱みがある。将来的には民間が運営し、行政がバックアップする形になれば、それぞれの市民活動団体がセンターにアクセスしやすくなる。

**【委員】**

・情報共有の仕組みづくりについて、現在は市民活動サポートセンター職員である市職員が中心に行っているとのことだが、情報共有は協働コーディネーターが行うことがふさわしい内容。機能を果たせる人材の育成が急務だ。協働コーディネーターは、人的資源や団体の情報、各種制度、県内外の好事例を集めてくることも役割。市職員がコーディネーターの後方支援をすることこそが協働と言える。第2次計画はまだ2年目なので、協働コーディネート機能を持った人を複数の分野で育てていけるかが肝。委員の1人してどのように協力していけるか、私事として考えていきたい。

**【委員】**

・何か協力したいと思い、協働委員会の公募委員に応募した。人材バンクがあれば登録し、協力したい。

・ICT技術を使えば直接会わなくて済むが、どのようにすれば顔と顔を突き合わせた交流が可能になるかを考えた方が良い。

・なぜ協働のまちづくりが必要か、もう一度立ち返って考えればいろいろ見えてくる。

**【委員】**

・橋渡教育長が、コロナ渦でいろいろな事業を取りやめるのではなく、感染を最小限に阻止しながら活動を進めていくことを考えてほしいと提案された。明科いいまちつくろうかい!!は、2～6月は新型コロナで休んだが、7月からは市職員に協力をいただきながら万全の対策を取って続けている。参加者からは良かったとの声を聞いた。それぞれ、コロナ渦でどのように工夫すれば継続できるかを考えていけばいいのではないかと。

・あづみの市民活動フェスタを実際に開催したことは素晴らしい成果。若い職員がこれだけの資料を用意し、事業の評価と反省を示してくれたことにも敬意を表したい。地域住民が地域の課題に目を向けて頑張ることも大切だが、市職員がけん引力となって地域住民を支えてくれることが何より重要で、その意味で企画が成功した。

**【委員】**

・職員の熱意が伝わってくる。新しく、若い感覚でFacebookを取り入れてくれた。

**【委員】**

・今年はいろいろな活動ができない中、工夫してフェスタを開催できた点はとても良かった。熱心な職員が異動したらどうなるか不安。1人でも専門員として配置することが大切ではないか。塩尻市市民交流センターえんぱーくでも専門職が臨時職員として働いている。

・情報を集めにくいと集まらないという点について、市民活動サポートセンターにチラシを持っていけば市民活動団体だけでは配れないような所へ配ってくれるなど、何か持ってくる価値があれば良い。チラシが手元に届けば、それが情報になる。

**【委員】**

- ・全体的にとっても真面目だという印象を受けた。
- ・協働推進行動計画について、そもそも評価が必要とは思えない。評価せずとも当事者が面白くて楽しめれば良い。活動に人が集まらなければならない。アメリカのポートランドでは、授業で地域ボランティアを取り入れている。地域とのつながりを学校や授業レベルで進めていかなければならない。
- ・Facebook を始めたということだが、若者に訴求力のあるプラットフォームを使っていくことが良い。

**【委員】**

- ・あづみの市民活動フェスタは今回、市民活動サポートセンターが主催だったが、実行委員会形式で開催してほしい。市民活動サポートセンターの登録団体には目的型の市民活動団体と地縁型の自治会、区があり、実行委員会には両方のメンバーに入してほしい。
- ・協働コーディネートの人材について、長野県ではまちむら寄り添いファシリテーター養成講座を実施している。講座を受けた人が市民活動サポートセンターに力を注いでもらえるような仕組みがあれば良い。

**【委員】**

- ・あづみの市民活動フェスタについて、実行委員会形式での開催をしたらどうかという提案があった。開催方法を考えてほしい。

**【委員】**

- ・一度に全部を解決していくのではなく、一步一步課題を解決していければ良い。
- ・インターネットによる情報発信に偏るのではなく、さまざまなツールを使うことで幅広い年齢層に情報を届けることができる。

**【委員】**

- ・あづみの市民活動フェスタ後の交流会も時間が限られてしまう。市民活動サポートセンターという場がないため、常に交流できる場を作りたいという思いを委員に投げ掛けたい。

(5) その他

① 安曇野市まちづくり推進会議について

※事務局より安曇野市まちづくり推進会議の概要を説明。

**【委員】**

- ・市民活動団体と区と一緒に活動することがとても大切だと感じている。団体同士の連携を図って一つの大きな事業を行い、区が関わっていくシステムを作っていければ良い。
- ・インターネットを活用したネットワークが騒がれているが、こういった顔の見える場所は良い。コロナに負けないよう開いてほしい。

(6) 閉会（細川会長）

（午前 11 時 45 分終了）

<補足>

※第 4 次安曇野市行財政大綱・アクションプランについて。

12 月 11 日の会議で委員よりご発言のあった「第 4 次安曇野市行財政大綱・アクションプラ

ン」について、協働のまちづくりの推進に関わる目標・指標は以下の通りになります。

取組期間：令和2年度～令和6年度

目標・指標：①市と市民活動団体等との協働取組数：50件/年

②市民活動サポートセンター登録団体数：250団体/取組期間

(参考) 平成31年度：163団体